長白山予備調査旅行報告

長白山において、長期間継続型の大気その他の環境調査を開始することになっている。今年度は、岩坂泰信（金沢大学自然計測応用研究センター）および石　広玉（中国科学院大気物理研究所）が 2005 年 8 月 10 日から 8 月 16 日まで、金　潤信（漢陽大学校）が 7 月 17 日から約 1 週間、観測を開始するに当たって兵站関係を中心とした予備調査を行った。この報告は、岩坂泰信と石　広玉とが中心となって行った調査の概要と報告である。

参加者

岩坂泰信（金沢大学）
柏谷健二（金沢大学）
金　潤ソク（金沢大学）
松木　篤（金沢大学）
山田　丸（金沢大学）
當房　豊（金沢大学）
玉村（金沢大学）
岡田（金沢大学）
楊（金沢大学）
沈　麗麗（東京農工大学）

石　広玉（中国科学院大気物理研究所）
陳（中国科学院大気物理研究所）
王　漂（中国科学院大気物理研究所）
Chen Bin　（中国科学院大気物理研究所）
鄭（中国科学院大気物理研究所）

主な日程

8 月 10 日日本側参加者主力が 2 つのグループで出発　北京空港で全員集合タクシーに分乗して指定宿舎へ。現地にて先着グループ、及び中国科学院大気物理研究所グループと合流。　よる宴会。スケジュール打ち合わせ。先発グループ鉄路で出発。

8 月 11 日スケジュール調整の後、夕方出発。飛行機延期、指定宿舎で仮眠の後出発。中国科学院生態統計研究センターのスタッフ出迎え。そのまま宿舎へ。

8 月 12 日現地視察開始。

- **長白山周辺の概況（観測拠点設営の観点から）一般に知られては居ないが中国側も自主規制がある。頂上での継続的な観測はかなり難しい（合**

意を得るまでに時間がかかる)。いくつかの観測施設が 1500 メートル以上にあるが一部は、外交的な判断により著しく規模を縮小している。山頂の気象観測点は 3 ヶ月のみ運用(技術的なことに加えて外交的な事情あり)。

- ７６０m付近にある中国科学院大気物理研究所の施設は、あらかじめ聞いていたとおりで、かなりの測器がそろっているもののきちんとした維持がなされていない。逆に我々が入ることで資金投入が期待できる。
- おおむね２０００m以上の地域は、自動車の運行も許可証を持つもののみが移動可能。

8 月 14 日現地引き上げ。よる柏谷健二教授らと合流

8 月 15 日延辺大学訪問。副学長と会談。方英玉博士の部屋を訪問(北京側でつかんでいる人物リストの中で、唯一の日本がわかっている人とのこと。政府の重点支援を受けて運営されている施設を任されている。専門:大気汚染。学位:熊本大学、化学工学)。その後、2 つに分かれて北京へ。一部、現地でそれぞれへ。北京行き飛行機遅延。

8 月 16 日帰国

結論

事情は、かなり飲み込めた。

私案として、「中国科学院大気物理研究所の施設へ、コンテナーハウスほか恒久的(10 年経営)機器を持ち込み、ここをベースとした活動を行う。平行して、短期間の頂上での活動などを現地状況を学習しつつ実施する。」を、石　広玉、金　潤信両先生に提案する。10 月末を目途として、調整したい。

科学研究費補助金の申請などは、それを想定して行う。また、両先生がこのような方向を認めてくれれば、この施設は、２１ＣＯＥ活動拠点、自然計測応用研究センターの海外拠点としての機能を持つことを承認してもらい、中国科学院大気物理研究所の承認のもとで日本と中国との科学技術交流プログラムの中にも入れてもらう。